

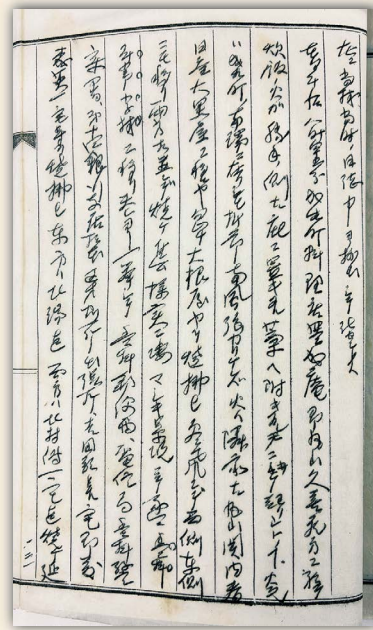
文書が映す安曇野の文化⑰ 各地区の神社勧請の理由を調べてみると…

各地区にある氏神様には、様々な神様が合祀されています。それぞれの神様を勧請した時の資料を調べてみると、当時の社会背景や、そこに暮らす人々の願いを読み解くことができます。

成相地区の八坂神社の鳥居の脇には秋葉社の祠があります。秋葉社の総本社は火伏の神で知られる静岡県浜松市にある秋葉神社です。御祭神は火之迦具土大神といい、火の幸を恵み、悪火を鎮め、諸厄諸病を祓い除く火防開運の神様として全国津々浦々で信仰されています。

この秋葉社は、現在は八坂神社の境内に祀られていますが、以前は、成相の上町、飴市の時に市神様の御旅所をおく広場の一角にありました。明治27(1894)年4月20日、町部の大半を焼き尽くした大火がありました。夜8時45分に出火し、強い南風にあおられて北へ延焼、6時間にわたり燃え続け198戸が焼失したという大火でした。秋葉社は、その大火の後に、今後このような悲劇が二度と起こらないようにと秋葉神社にお願いして勧請してきたものです。

なお、この大火では、東穂高村三町（穂高町・等々力町・八軒町）の自治組織の消防組がポンプ2台をもって駆けつけ、消火に尽力し、大きな成果をあげたことが「穂高町消防団沿革誌」に記録として残っています。



「豊科学校沿革史」にみる大火の様子

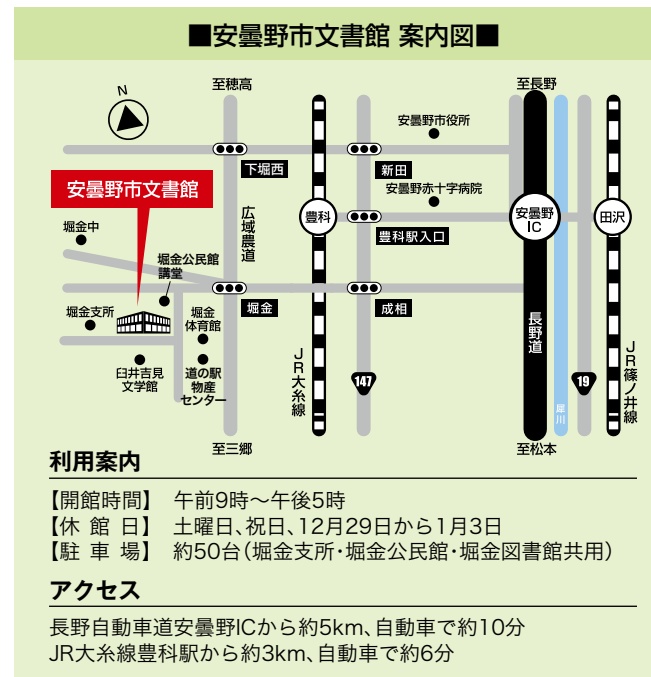
企画展等の予定

- 企画展「復活！未公開フィルム」展
【期間】 令和9年1月17日(日)～3月31日(水)
- バックヤードツアー
【日時】 令和9年2月14日(日) 13:30～15:00

令和9年度企画展

安曇野市文書館開館10年企画

- 前期企画展「注目！学校資料」
【期間】 令和9年5月16日(日)～8月29日(日)
- 後期企画展「われらが安曇野市文書館」
【期間】 令和9年9月12日(日)～12月26日(日)



利用案内

【開館時間】 午前9時～午後5時
【休館日】 土曜日、祝日、12月29日から1月3日
【駐車場】 約50台(堀金支所・堀金公民館・堀金図書館共用)

アクセス

長野自動車道安曇野ICから約5km、自動車で約10分
JR大糸線豊科駅から約3km、自動車で約6分

安曇野市文書館だより

第17号



後期企画展 古文書に見る安曇野 ～絵地図・地名編～

企画展趣旨

「古文書」と聞くと、どのような文字が書いてあるかわからない、文字が難しくて読めない、といったイメージをお持ちの方も多いかもかもしれません。

しかし、文字だけで書かれた文書ではなく、地域の様子が絵や図で表現された「絵地図(絵図)」ならばどうでしょう。

絵や図なら何となくわかりそうだと思う方もいるでしょうし、また文字よりも具体的なイメージを持ちやすい方もいると思います。当館では、皆さんが古文書に親しむ機会として、文書館で収蔵している絵地図の企画展を行います。この企画展では、昔の絵図に安曇野市域はどのように描かれていたのか、昔の人はこの地域をどう認識していたのか、現在とどのように違うのかを紹介します。



大判サイズの絵図の複製も展示します(図は「筑摩県第十大区絵図」)

期 間 令和8年9月13日(日)～12月27日(日) 会 場 文書館1階閲覧コーナー 入館料 無料

講演会「絵地図にみる安曇野の川と道」

【開催日時】 令和8年9月27日(日)午後1時30分～午後3時
(開場 午後1時)
【講 師】 山浦 直人 氏(長野県立歴史館名誉学芸員)

講座1「町村名の変遷と市町村章」

【開催日時】 令和8年10月18日(日)午後1時30分～午後3時
(開場 午後1時)
【講 師】 松澤 果穂(文書館職員)

講座2「絵地図からよみとる安曇野」(親子向け)

【開催日時】 令和8年11月15日(日)午後1時30分～午後3時
(開場 午後1時)
【講 師】 千村 裕一(文書館職員)

<講演会・講座>

参加費 無料

会 場 安曇野市堀金公民館
3階会議室1

事前申込 必要
(電話、FAX、メール)

○講演会: 8月25日(火)から
○講座1: 9月28日(月)から
○講座2: 10月19日(月)から

安曇野市文書館
ホームページ▶▶



あとがき 文書館に収蔵されている資料は、文書(読む資料)だけではなく、写真、ビデオ・DVDなどの見る資料、レコードやカセットテープといった聞く資料など、さまざまな資料があります。さらには、豊科町さよなら記念事業タイムカプセルの容器と石版、豊科ICの看板、安曇野ナンバーの大型レプリカといった大きなモノまであります。令和8年度の後半は、絵地図の展示と映像資料の展示を行います。大人も子どもも楽しめる、今までと一味違う展示をお楽しみください。



安曇野市文書館

安曇野市文書館だより 第17号 編集・発行 安曇野市文書館 発行日: 令和8年9月13日
〒399-8211 長野県安曇野市堀金烏川2753番地1 TEL 0263-71-5123 FAX 0263-71-5127
E-MAIL bunshokan@city.azumino.nagano.jp URL www.city.azumino.nagano.jp/site/bunsho/

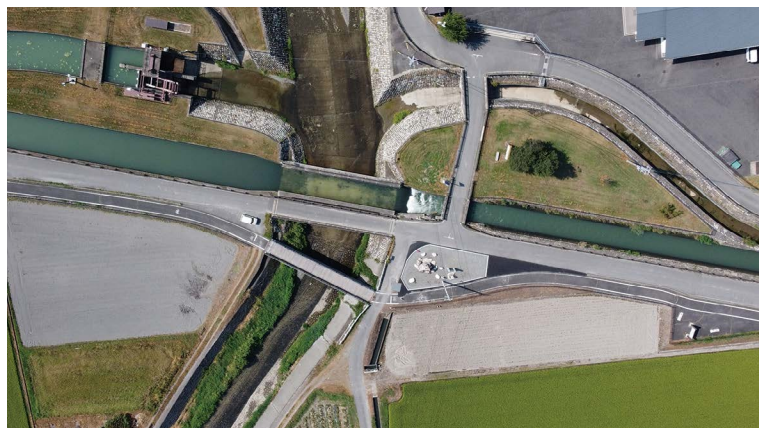


「筑摩県安曇郡拾ヶ新堰絵図」

じっかせぎ
拾ヶ堰は江戸時代後期に開削された安曇野を代表する用水路です。文書館には拾ヶ堰に関する文書や絵図が数多く収蔵されています。「筑摩県安曇郡拾ヶ新堰絵図」は方位・距離・構造が正確に描かれ、色彩の豊かさが際立つ絵図です。

拾ヶ堰について少し触れると、等々力孫一郎、中島輪兵衛、平倉六郎右衛門らが中心になり、文化13(1816)年に開削された官民一体の大事業でした。拾ヶ堰の開削により、堰下は一面の水田へと変わりました。木曾川(現:奈良井川)から取水し、梓川を渡り安曇野に水を運びました。その総延長は約15kmにおよびます。拾ヶ堰は、200年以上経った現在も約760ha(令和8年時点)の水田に水を送り続けています。

この「筑摩県安曇郡拾ヶ新堰絵図」は用水路を維持管理するために描き留められ、約束事が示されています。取水する土手(導水堤)の角度、堤防の規模や様子なども詳しく描かれています。発見された当時、豊科郷土博物館で公開されたのでご覧になった方も多いと思います。文書館では「筑摩県安曇郡拾ヶ新堰絵図」のレプリカを作成し講座などで活用しています。精度や筆運びを楽しんでいただけたと思います。

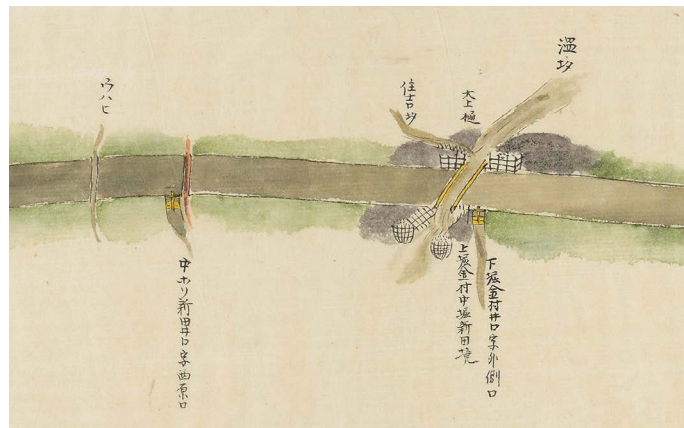


よるずい
拾ヶ堰と万水川・あづみ野排水路
交差部(堀金地域)

筑摩県安曇郡拾ヶ新堰絵図(部分)
梓川を越える拾ヶ堰



上図□部の拡大図
「コノ所十六ケンツキ土手」「コレヨリ上へ百六十七ケン
堤防所高サ平均二ケンシキ同五ケンフミ同二ケン」



大正9(1920)年に伏越(サイフォン)工事が実施されるまでは、梓川の中に土手を築き、水路を通していました。日常は穏やかな、ともすれば水も流れない梓川ですが、ひと度大水になると土手は崩れ、その度に修復を行って機能を維持してきました。明治4(1871)年~明治8(1875)年には15回もの修復工事が記録されています。修繕してはまたすぐ流される、の繰り返しです。想像を絶する労力だったと思います。平成10(1998)年には新しいサイフォンになり、奈良井川の水は潤沢に安曇野市に運ばれています。

絵図には伏越工事がなされる以前の拾ヶ堰の様子が詳しく描かれ、取水、梓川を越す、古い用水路との交差など情報が詰まっています。原図は約12mにも及ぶ長大な絵図です。6分割された原寸大の絵図の複製をご覧いただき、拾ヶ堰を維持してきた先人の知恵に触れていただけたら幸いです。

大正時代の伏越工事の様子(曾山家文書229)▶

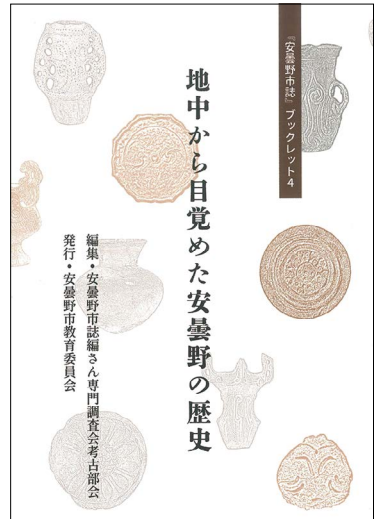


『安曇野市誌ブックレット4 地中から目覚めた安曇野の歴史』

安曇野市教育委員会では『安曇野市誌』の編さんを進めています。その調査・研究の過程で得られた成果を、一冊1テーマのブックレットにまとめて市民の皆さんにお届けしています。

その4冊目として発行されたのが本書です。安曇野市で発見された特徴的な土器や石器など43点を、市誌編さん専門調査会考古部会の皆さんが、写真とわかりやすい文章で紹介しています。

一冊500円(税込)で、安曇野市文書館および豊科郷土博物館で販売しています。ぜひ、お手に取って、地中から目覚めた(新たに明らかになった)安曇野の歴史をお楽しみください。



【主な内容】

- ・ 安曇野における最古の人間の足跡
- ・ 仮面をつけた女性の正体
- ・ 赤色に磨かれた土器をもつ人々
- ・ 馬具とともに葬られた人物
- ・ 明科廃寺と桜坂古窯址の軒瓦
- ・ 土器に書かれた文字
- ・ 大陸とつながる縄文時代のピアス
- ・ 弥生農耕社会の道具箱
- ・ 古墳に供えられた土器
- ・ 大和政権と結びつく武器
- ・ 安曇野ブランド?の土器
- ・ 埋められたお金

など